

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

第 2 部 病院会計制度概論

第 11 章 キャッシュ・フロー計算書の作成

11-1 間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 1

11-1-1 キャッシュの増減の仕組み (承前)

$$\text{貸借対照表等式：資産} = \text{負債} + \text{純資産 (資本)}$$

ここで、キャッシュ・フローは現金預金（現金および現金同等物）の動きであるから、貸借対照表等式の資産を次のように分解する。

$$\text{現金預金} + \text{その他の資産} = \text{負債} + \text{純資産 (資本)}$$

次に現金預金以外の資産を右辺に移動する。

$$\text{現金預金} = - \text{その他の資産} + \text{負債} + \text{純資産 (資本)}$$

貸借対照表等式から、現金預金とその他の勘定との関係が明らかとなった。この式から、現金預金の増減は、次の式で表すことができる。

$$\text{現金預金の増減} = - \text{その他の資産の増減} + \text{負債の増減} + \text{純資産 (資本) の増減}$$

これが、キャッシュの増減に関する基本原則となる重要な式である。この式から、次の関係が明らかになる。

キャッシュの増減原則

(現金預金以外の) その他の資産の増加
⇒キャッシュの減少
(現金預金以外の) その他の資産の減少
⇒キャッシュの増加

負債・純資産 (資本) の増加 ⇒ キャッシュの増加
負債・純資産 (資本) の減少 ⇒ キャッシュの減少

< 続く >

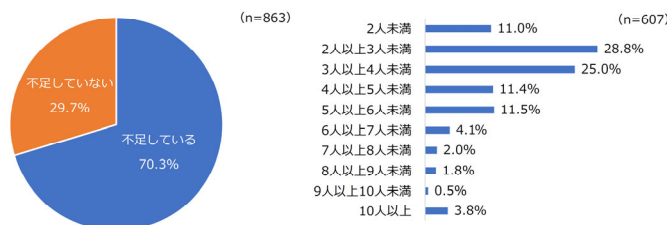
(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

特別養護老人ホーム 人材不足

独立行政法人福祉医療機構が「2023 年度特別養護老人ホームの人材確保」についての調査を行い、70.3%の施設で職員が不足しているとの回答がありました。

◆ 人員の状況

- 人員（直接処遇職員）の状況について「不足している」施設は70.3%であった
- 不足人員数は、「2人以上3人未満」が28.8%、次いで「3人以上4人未満」が25.0%であった
- 不足人員数は平均3.6人であった



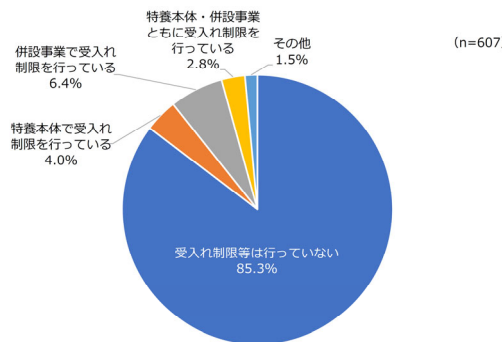
◆ 不足している職種

- 不足している職種は、98.4%が「介護職員」と回答した
- 定員規模が大きい施設では、介護職員以外の職種も不足しているとの回答した割合が増加した

不足している職種	定員規模					全体 n=607
	29人以下 n=101	30~49人 n=30	50~79人 n=211	80~99人 n=137	100人以上 n=128	
介護職員	98.0%	96.7%	99.5%	97.1%	98.4%	98.4%
看護職員	27.7%	26.7%	36.5%	42.3%	32.8%	35.1%
理学・作業療法士	3.0%	3.3%	2.8%	7.3%	8.6%	5.1%
介護助手	3.0%	3.3%	6.2%	8.0%	10.2%	6.8%
その他	1.0%	3.3%	5.2%	6.6%	7.0%	5.1%

◆ 人員不足による利用者の受入れ制限

- 不足感を感じながらも、85.3%が「受入れ制限等は行っていない」と回答した
- 特養本体や併設事業で受入れ制限を行っている施設も一定程度あった



※上記、図表の出典は「2023 年度特別養護老人ホームの人材確保に関する調査結果（独立行政法人福祉医療機構）」となります。